

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400153		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の里 楽舎		
所在地	島根県出雲市宇賀町23番地10		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和7年1月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所理念として「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る」「愛、家族、絆のかけはしに…」を実践できる様に日々取り組んでおります。利用者様の生活の継続、歴史の尊重、笑顔の絶えない時間を大切に支援を行うことで御家族様にも一緒に喜んでいただける様に支援しております。温もりある手作りの食事、臭いのない清潔な空間を提供することで気持ちよく過ごしていただけるよう取り組んでおります。活動や体操、外出や買物に参加していただき、アクティブな生活を提供することで「できる力」を発揮してやりがいや自信につながる様に支援しております。自然に溢れた環境の中、地域との関わりも積極的にもつことで季節や風習、思い出話を利用者と共に共有し、支援や取組みに取り入れさせていただきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

前回調査から2年。コロナ感染症が5類になり、徐々に以前のような動きに戻りつつある中、12月にインフルエンザが発生した為、ほぼ以前同様の感染症対応を継続している。そのような中でも開所当時から理念が引き継がれ、職員個々にも、各ユニットごとにも目標が掲げられている。今年度は実現可能なより具体化した目標を掲げ、モチベーションを上げ取り組んでいる。コロナ禍が続き、ここ数年の利用者を含めたグループホームの形には大きな変化を感じている。より複雑化していく認知症に対応する為、今まで以上に個別化の必要性を感じ、研修の在り方も従来通りのものではなく、内容を検討して行われている。職員の評価が適切に行われており、働きやすさを感じる職員が多く離職者も少ない。今後に於いてもより充実したケアの為、業務改善に取り組み認知症に特化した施設の継続に努めていただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送りの際に事業所の理念を唱和し、共有、支援につなげている。毎月の理念(職員考案のもの)も同様に行っている。	開所時に作成された理念を継続しており、それに基づいて毎月の理念を職員が順番に作成し、併せて唱和している。施設長、管理者を含め職員全員が年間目標を作り事務所内に掲示し、原点に立ち返ることを大事に考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の郵便局へ利用者様と作った作品を展示してもらっている。地域のボランティアの方がお花を生けに来られ交流している。	地域の活動は戻りつつあり、文化祭には作品を展示し見学に出かけている。小学校からは福祉活動の受け入れの要請があったり、介護職を目指す学生から介護職員としてインタビューを受ける予定もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	楽舎新聞をコミセンや地域の方々へ送付し、先方からもいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者様の様子や取り組み等の報告を行っている。ご家族、地域ボランティア、市職員と率直な意見交換を行い、サービス向上へ活かしている。	定期に開催している。家族への参加をお願いするも少なめ。地域からはコミセンの館長やボランティアの方、行政からは市職員を交え行っている。利用者状況に各施設の報告事項、議題は各リーダーが毎回出しあい、意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各関係機関へ都度電話やメールで問い合わせなど行い、運営推進会議の機会に分からない点など、質問・意見を交換し支援へ繋げている。	運営推進会議には毎回参加があり、専門的立場から助言を受けたり他施設の情報を得ている。生活保護担当課からは年2回訪問があり情報共有している。介護保険担当課とはメールや郵送が主で出向くことは少ないが、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回、身体拘束廃止委員会を開催し、都度見直し確認を行っている。日頃から何が身体拘束になるのか話し合い、全ての職員が正しく理解している。	委員会、研修等定期に開催しているが、従来通りの読み合わせのような研修ではなく、男性への対応など利用者個々に合わせた研修になるようにしている。グレーゾーンや不適切ケアについては、事例を用いてより具体化して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回内部研修で虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、申し送りの場などで意見交換し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進委員が内部研修や申し送り時に学びの機会を設け、活用できるように支援している。後見制度の申請の協力や、その後の対応など行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い、安心して入居していただけるように対応している。改定、変更時には都度文章等で案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、受診時や運営推進会議の場などで、家族様の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。	日頃の様子や行事の写真を送ったり、便りを作成している。それに加え担当から毎月の様子を手紙に書いて家族に送り、意見を得る機会としている。電話や面会時にも様子を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝礼時に意見交換や検討を行い、個別に話す機会を持ち意見を聞き取り反映させている。	年度終わりに管理者との面談の機会がある。日々の検討事項については、送りノートで共有するようにして内部研修でも改善点を話し合っている。有休取得や勤務変更に対応することで、働きやすく離職に繋がらないように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得することにより手当が支給される仕組みを取り入れ、モチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、研修テーマを決めて発表し学ぶ機会を設けている。悩んでいること等を申し送り時や内部研修時に意見交換を行い、解決できるように取組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で学ぶ機会は減少しているが、インターネットや紙面を利用し、サービスの質を向上するよう取組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れる様に不安や困難事項を早期に対応し、利用者様のニーズを十分に聞き入れながら信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり、ご家族様の方の意見を十分にお聞きし、ニーズを聞き出し努力を行って関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の身体や気持ちの状況を見極め、何が必要か、医療や他の専門機関等の意見を参考にして支援やサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自身で出来る事は可能な限り本人にさせていただき、出来ないことをサポートしながら共に寄り添って暮らせる様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の毎月の様子を家族様へ手紙や写真で伝えている。都度、家族様に受診対応の依頼、排泄品の持参など協力させていただき、サポートをしていただく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の今までの生活歴を傾聴し、ご本人の希望に沿って外出支援や友人との面会や電話で話される機会を設け、馴染みの人と途切れないよう支援している。	毎週娘さんと電話で話をする方や、高校の同級生の面会が続いている方もある。コロナ禍が続く支援を縮小していることで、閉鎖的と感じる方もあり、今年度は散歩や買い物の機会を増やすよう計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の間人間関係が円滑になる様、席の配置に配慮したり、一緒に活動など参加していただくことで関係作りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはアルバムをお渡しし、退居後も経過を家族様からお聞きして、これまでの関係性を大切にできるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員は介護スタッフと連携し、利用者様一人ひとりの要望や意向の把握に努め、ケアに活かしている。	入所時に家族への聞き取りを行うがわからないことも多い為、入所してからのことも加えアセスメントを作成している。元旦には思いを書初めにして掲示。デイの音楽療法に参加したことで歌が好きなことがわかり、プランに繋がったケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活をアセスメントし、グループホームでも継続して生活できるように支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、身体状況チェックし、シートを活用しバイタルや水分量、排便を把握している。日々体操やレクリエーション、外出など(行事も含む)取り入れてリフレッシュに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やカンファレンスを通して職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。定期的にモニタリングを行いプランを見直すことで、よりよい支援ができるように努めている。	モニタリングを3か月に1回まとめ、面会時に家族に説明しサインをもらっている。コロナ禍が続く、本人、家族参加での担当者会議はできていないが、面会時や電話で意見を聞くことで計画作成に繋げている。	利用者本人、家族等、できるだけ多くの関係者で担当者会議を開催することで、家族との信頼関係を築き、より良い計画になるよう努めていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳細に記録し、毎日の記録でもモニタリングができるような書式となっている。介護計画作成時には担当者が記録をもとにアセスメントにまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部の福祉業者や関係医療機関へ相談したり、有料ボランティアの活用や福祉タクシー等を取り入れて、一人ひとりに合った満足していただける支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への作品展示や催しへ参加、移動式スーパーでの買物、ケーブルTVでの地域情報の把握ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は協力的で、24時間連絡がとれる体制になっている。家族様が対応できない場合はヘルパーなど外部サービスへの依頼も支援している。	往診可能で24時間指示が得られる施設のかかりつけ医に変更することも、今までのかかりつけ医を継続することもできるようになっているが、殆どの方が入所時に変更される。他の科については家族対応で継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時に状態変化の情報を共有している。かかりつけ医や看護師との24時間のオンコール体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行いカンファレンスへ参加し、連携ができるように努めている。継続した通院のサポート、連携ができるように情報提供を継続して支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を都度かかりつけ医と連携をとり、家族様へ都度報告している。入居時には重度化、終末期についての説明を行い、状態や介護度の変更に伴い都度説明、相談を行い取り組んでいる。	入浴は一般浴で機械浴ではない等の設備面の実情を入所時に説明している。重度に向けては医療連携ができていることもあり、その都度話し合いの機会を持ちながら、特養の申し込みの話もするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全利用者様の個別カルテに119シートを備え、職員が共有している。実際に人形で心肺蘇生を行ったり、AEDデモ機を使ったりした研修や訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を年に2回行っている。個別での身体状況に合わせた誘導方法も一覧表にして掲示している。個別に避難時の身の回り品を常時準備し備えている。	豪雨時には浸水の恐れがあるので、豪雨に対応できるように訓練を重ねている。消防の指導や地区の消防団の協力も受けながら、備蓄も整え有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月1回、必ずケアの基本的な研修会を行い、支援や接遇について意見交換をしている。日々の支援の中でもスタッフ同士声をかけ合い、プライバシーに配慮できる対応をしている。	この地域独特の言い方がきつく聞こえることや、何気なく使っている言葉が実情に適していないなど、会話が外部の人からどのように聞こえるのか、研修時や朝礼で話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉やジェスチャーを使い、コミュニケーションを図り、思いや希望をお聞きし表情などから汲み取り自己決定の支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調や気持ちを尊重し、安全を最優先にし、ご希望を聞きながら個々のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔な衣類を着ていただいたり、定期的に移動美容室にて髪を整えたりし、身だしに配慮した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日手作りの食事と、週に2回パン食を提供し、個人の嗜好品を把握し、誕生日や季節行事の食事を取り入れている。	買い物に行ったり、地域からのいただき物を利用したり、できるだけ地域の食材を使い3食作っている。熱い物や冷たい物など好みに合わせ、できるだけ美味しく食べれるようにしている。誕生日にはお好み食を聞いて出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量を表に記入し、毎月の身体測定を実施して、健康管理の把握に努めている。好みや状態に合った捕食や飲料も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別に適した口腔ケアを行い、マウスウォッシュも活用し、利用者様によっては見守りや介助で行う。夜間は義歯を洗浄剤につけて消毒し、起床時に装着していたく支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々一人ひとりに合わせ、排泄困難な方には定時誘導したり、排泄用品の検討、見直しを行うことでなるべく排泄の失敗を少なくするように心がけている。	男性でトイレに座る習慣がない方や夜間尿漏れのある方など、個々に合わせ対応している。便秘の方が多く浣腸や座薬が必要になる為、水分摂取を含めて食事に気を付けたり、体操を取り入れたり、スムーズな排泄に繋がるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多く摂ってもらったり、週2回ヨーグルトを摂取してもらっている。適度な運動や便秘体操も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態や希望に応じて入浴時間を調整し、気持ち良く入浴を楽しんでもらえるように支援している。	大きめの家庭浴槽で浴槽周りが広く、冬は温度が上がりにくい。重度で車イスの方で中に入れない場合はシャワー浴対応としている。1日おきの午前中に声がけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や体調を考えてホールや居室で休んでもらい、ホール内にソファやベッドを設置し、安心して休んでもいただける環境設定を行うことで穏やかに過ごしてもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬時は名前を本人に確認してもらい、飲み込みの確認を徹底している。カルテ内に薬リストがあり、変更時には申し送りノート等で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様に合ったレクや食事の提供をしたり、希望地にドライブを行ったり気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外出や外食をされたり、戸外へのドライブに出かけられたりし、世界観を共有しながら支援をしている。	施設の敷地が広く、周辺や近隣を散歩することが多い。テラスで日光浴したりお茶したり、外気に触れ気分転換できるようになっている。コロナ感染症が5類になり、ドライブや近くの道の駅に出かけており、普段見れない笑顔が見えたり、外出の効果を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の預り金より、要望されたり必要な物品を購入されたりしている。移動式スーパー来訪時には買い物を楽しまれるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、手紙のやり取りなど自由にできるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心がけている。季節の花や、食事でも季節を感じていただけるようにしている。スタッフの足音、TVの音量、温度・湿度の設定、掲示物の配色など心地良く過ごしていただけるように配慮・工夫をしている。	建物が道路から少し入っている為、車の騒音も少なく静かである。窓から草木など景色が見え季節感も味わえる。天井が高くホールから長い廊下も続き、前のテラスも広く開放感がある。コロナ感染症やインフルエンザなどの感染症の為、特に換気には配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分のペース過ごしていただけるようホールのTVを観て談笑して過ごされたり、居室でTVを観られることもある。席の配置やソファの活用で空間作りに配慮し個々に合わせた居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の愛着のある物をお持ちいただき、家具の配置、写真や作品を飾るなどして、安心して過ごしていただけるように支援している。	テレビや衣装ケース、タンス等が置かれており、1日のスケジュール、家族等の写真が壁に貼られている。季節に合わせて衣類や布団の入れ替えを家族が行い、一緒に部屋が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓して居室戸には表札、居室内には物品名を表示することで理解を促し「できること」に繋げるよう工夫している。利用者様の目線に合わせて安全に移動できるように支援している。		